

WEEKLY REPORT

小金城が落城して家臣団の一部は近隣の湿地帯を開拓し新田開発をしました。そして、開拓した土地に自分の名前を付け新田としました。七衛門新田、九郎左衛門新田、主水新田、伝兵衛新田、大谷口新田等が地名として今も残っています。家臣の苗字として千駄堀の安藤家の名前はこの地区では有名です。また、幸谷で一番多い苗字の花嶋家も家臣だったようです。

前置きがちょっと長くなりましたが、本題の秋山婦人の話をさせていただきます。先日、本土寺参詣時に秋山婦人の墓を見学して頂いたでしょうか。秋山婦人は徳川家康の側室で名をお津摩しもやまのといひます、大奥では下山殿と呼ばれていました。なぜ、本土寺に徳川家康の側室の墓があるのでしょうか。墓を建立したのは水戸光圀です。寺川さんが家族例会の時に演じた水戸黄門のことです。

小金城が落城し高城氏の代わりに城主になったのが徳川家康の5男で名前を武田信吉と言います。1590年、武田信吉7歳、その母お津摩が23歳の時でした。小金城は生活に適していないため本土寺の近くに居を構えていたようです。

なぜ、徳川家康の子なのに武田姓を名乗ったのでしょうか、これは旧武田家臣団を掌握するための徳川家康の知恵だったようです。織田信長は敵側になると容赦なく打ちのめしましたが、秀吉と家康は活かして人を使ったようです。

武田信吉の母親であるお津摩は武田信玄の家臣の一人で秋山虎康の娘です。お津摩は徳川家康の側室になるに当たり穴山梅雪の養女になっています。それから、15歳で家康の側室になりました。穴山梅雪は武田信玄の甥で奥さんは武田信玄の娘です。穴山家は武田家一番の縁戚関係にありました。このため、お津摩は徳川家康の側室の中で一番格式が高かったようです。しかし、お津摩は1591年信吉がまだ8歳の時に24歳の若さで小金の地で病死してしまいます。

その後、信吉は1593年10歳の時に佐倉に4万石で転封となりました。その後小金の地は幕府直轄の天領地になりました。更に1602年関ヶ原の戦(1600年)の後、20歳の時に水戸へ配置換えとなります。この時まだ徳川水戸家は創設されていません、武田信吉を城主として武田遺臣団により武田家が再興されたと考えていたようです。しかし、残念ながら1603年21歳の若さでこの世を去っています。信吉の家臣は大部分がそのまま水戸に残留し、その為、その後の水戸徳川家には武田家の威風が色濃く残ったようです。墓所は最初、水戸の心光寺しんこうじにあったものを光圀により、水戸徳川家の墓がある瑞龍山ずいりゅうざんに移転されています。

水戸徳川家は、家康の十一男頼房よりふさを初代としています。徳川御三家の一つです。他に御三家は九男義直よしなおを初代とする尾張徳川家、十男頼宣よりのぶを初代とする紀州徳川家があります。御三家は末の九男、十男、十一男の子共達が初代となっています。話を水戸家に絞っていくと初代が頼房、二代目が光圀、すなわち水戸黄門になります。

その二代目の水戸黄門が本土寺を参詣した時に、門前にお津摩の墓がありその上に松が植えられている事を聞かされ、見てみるとあまりにもみすぼらしい墓であったため、墓を掘り返し本土寺内に大きな墓を建立し改葬されたそうです。本来であれば水戸徳川家の初代藩主になっていただろう、おじさんである信吉のご母堂様の墓だからせいぜい立派なものと考えたのではないのでしょうか。

私の記憶では掘り返したけれど遺骨は見つからなかったと聞いていましたが、先日の本土寺のお坊さんからは秋山婦人の墓には遺骨が埋葬されているとの説明がありました。

今回卓話をするに当たり、今まで不明な点、あいまいな点などをインターネット等で調べましたが、著者によって違うところがありました。

従って今日の私の卓話もその程度だと思って下さい、話があっちこっちに行つてまとまりませんでしたが、小金の地区に、今まで以上に愛着を持っていたいただければと思い、拙い内容でしたが卓話させて頂きました。ご清聴ありがとうございました。

社会奉仕基金3,780円

《会報編集委員》大川隆永・野澤新之助・高橋修・森谷充伯

Rotary  2018-2019年度

国際ロータリー 第2790地区 第13グループ

松戸北ロータリークラブ会報



インスピレーションになろう

「四つのテスト」 言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第2247回 例会 2019年4月10日(水)

- | | | | |
|------------------|---------|-----------|---------------------------------------|
| ■国際ロータリー会長 | バリー・ラシン | ■例会日 | 毎週水曜日12:30より(第1例会18:30) |
| ■第2790地区ガバナー | 橋岡久太郎 | ■例会場 | 流山市前ヶ崎717「柏日本閣」 |
| ■第13G アシスタントガバナー | 野村 充 | ■事務所 | 松戸市八ヶ崎1-11-13 カナリスハイム101 |
| ■松戸北ロータリークラブ会長 | 高橋 一彦 | ■TEL/FAX | 047-711-5950 / 047-711-5910 |
| ■松戸北ロータリークラブ幹事 | 小澤 直之 | ■Web/Mail | www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp |

<第2247回 例会プログラム>

12:30	点鐘 ロータリーソング斉唱	高橋一彦 会長
12:35	会食	
13:00	会長挨拶・ 幹事報告	高橋一彦 会長 小澤直之 幹事
13:05	卓話 秋山夫人とその関連について	大塚精一 会員
13:25	社会奉仕基金発表 ニコニコ発表	社会奉仕委員会 ニコニコ委員会
13:30	点鐘	大川高明 副委員長 沖 昌彦 委員 高橋一彦 会長

<クラブ会長挨拶:高橋一彦会長>

今月のロータリーは「母子の健康月間」です。予防可能な原因で母と子どもが命を落とすことなどあってはならないと、私達はロータリアンとして考えなくてはなりません。すべての母子が質の高い医療を受けられるよう、そして、出産で命を落とす母親がいなくなり、子どもがすくすくと成長できるように、私たちは支援活動を行っています。毎年、5歳未満で命を落とす子どもは、世界で推定590万人。その原因は、栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如など、どれも予防が可能なものばかりです。現在、ロータリーとしての活動は、教育、予防接種、出産キット、移動クリニックなど、ありとあらゆる方法で母子の健康を推進しています。また、女性を対象に、HIV母子感染の予防、母乳による授乳、病気の予防に関する教育も行っています。

以上のような内容が広報誌やマイロータリー等から伺う事ができます。日本国内では実感にくい内容ではございますが、これらの活動への支援に向けて、日本国内でも各クラブ内活動として行われている内容も広報誌より伺う事もあり、ロータリー財団への支援が中心になっている事も感じ取れます。

国際ロータリーとしての活動範囲はもちろん大切ですが、昨今では日本国内においても「母子の健康」を含んだ「家庭の健康」を世間より心配される内容もうかがい知る事もあり、そこで重要視されるのは子供への安全対策も勿論のこと、将来を担う子供達に対し「健全な精神と健康維持」への対応策も課題としてあるのではないかと私は考えます。

先般も当クラブでの活動案件の検索よりも関連される内容の提示がございましたので、まだ提案期間中での考えとはなりますが、この様な方面に向けての活動にも目を向けてみては如何かと思えます。簡単ではございますが、この後は近隣地域の歴史に関しての会員卓話もございますので、本日の挨拶はここまでとさせていただきます。



<幹事報告:小澤直之幹事>

■「ロータリーデー・希望の風コンサート」講演会のご案内が届いています。

日時:2019年5月22日(水) 受付:13時30分

開会:14時00分場所:千葉市文化センター アートホールでの開催

■松戸ロータリークラブ 石井パストガバナーと伊原IMリーダーより野村アシスタントガバナー、渡辺IM実行委員長宛にお礼状が届きました。



<卓話 秋山夫人とその関連:大塚精一会員>

去る3月27日に本土寺を参詣し、係のお坊さんから本土寺の歴史等についてお話を聞かせて頂きました。

私は地元の歴史について興味が有り、いろいろな方から昔の事を聞くのが好きです。そこで、今日はその聞きかじりの事柄をあっちこっち繋ぎ合わせてお話させて頂きたいと思えます。聞きかじりの話なので間違いがあるかもしれません、その時は後でそっと私に教えて下さい。

先ず小金の地域ですが、気候が温暖なところで大昔から栄えていた処のようです。6000年前の縄文時代前期には幸田貝塚が存在し、その規模は45,000㎡東京ドームとほぼ同じ面積の処に160軒以上の建物があった事が確認されています。

地理的には下総台地がこの地域から南東に広がっています。新松戸の駅を思い出して下さい、駅の西側が現在住宅街で50年位前までは一面田んぼでした。その昔は下谷3,000石と言われた処です。幸田貝塚が存在していた縄文時代前期には海だったようです。東京湾がここまであったという事です。駅の東側に小高くなったところがあります。これが下総台地の始まりです。下総台地は昔の言い方ですと下総から上総、安房へと繋がっていきます。解りやすく言えば今の千葉県の事です。

先程東京湾の話をしました。徳川家康が江戸に城を構えた頃は、江戸は湿地帯が多く、これらを埋め立てた低地帯が多かったため、川の氾濫がしょっちゅうあり家康を悩ませていたようです。氾濫が多くあったのが利根川です。ところが名前は利根川ですが今の利根川ではありません。今の江戸川と考えてください。家康は利根川があまり氾濫を起こすので利根川の流れを変えることを考えました。それで、色々な時期に色々な工事をしていますが、一番大きな工事は関宿から太平洋の鹿島灘、銚子まで掘削工事を行い新しい川を作ってしまった事です。これには60年の歳月を掛けたようです。この川が利根川となり、従来利根川と呼んでいたものを江戸川と呼ぶようにしたようです。

戦国時代には、小金を含めた東葛地区一帯は高城氏が納めていました。高城氏は千葉氏の家老の原氏、その原氏の家老の家柄であったようです。最初、高城氏は栗ヶ沢に城を構えて、その後根木内に移転をして、さらに大谷口の地で終焉を迎えています。このお城は大谷口城とか小金城とか呼ばれています。国道6号線から新松戸へ向かう都市計画道路3・3・7号線の流山線を高架するところがあります、その右側の台地が本丸跡と古地図に記載されています。

高城氏と深い関係で結ばれていたお寺が東漸寺、広徳寺、大勝院、慶林寺のお寺です。東漸寺、広徳寺、大勝院の3つのお寺は高城氏のお城の移転と一緒に小金原方面から現在の処へ移転をしています。慶林寺は高城胤吉の奥さんが、大谷口にお城を移転してから建立されたお寺です。東漸寺は鈴木住職からお話を頂ける機会があると思えます。広徳寺は中金杉にあり高城氏の菩提寺で高城胤吉の戒名「広徳寺殿...」から付けられたとの事です。宗派は曹洞宗で並木会員と私の家の菩提寺の本寺です。本寺に対して、本寺の下にある寺を末寺と言います。大勝院は大谷口にあり高城家の祈祷寺であったとのことです。高城氏は戦国武将ですからここで戦勝祈願を多くやったのではないのでしょうか。宗派は真言宗豊山派で吉田会員の菩提寺です。大谷口と横須賀についてお話をさせていただきます。大谷口は大きな口の谷と書きます、亡くなった池田清さんの前の坂道が川で台地から海に注ぐ河口のような処から大谷口と呼ばれたようです。また、横須賀は大谷口から流れ出した砂が堆積した処、昔、学校で三角州と言うのを習った事があると思えます、その三角州が長く伸びたところなので横須賀と呼ばれたようです。神奈川の横須賀も同じような地形からその名がつけられたものと思われま。大谷口は高城氏の家臣団、横須賀は大谷口城下の商店街だったようです。横須賀には商店を表すような屋号が多く残っています。足袋屋、下駄屋、炭屋、味噌屋、馬を扱う馬クドン等、私がかつ知っているだけでもこれだけあります。話は少し戻りますが、高城氏は小田原の北条氏と同盟を結んでいた関係で豊臣秀吉の小田原攻めで北条氏が敗北した時に小金城も落城しています。1590年の事です。高城氏は北条方が不利と見て戦わずして城を出たようです。そのため、江戸時代には徳川家の幕臣として生き延びています。菩提寺の広徳寺住職にお話を伺ったところ、直系の子孫を名乗る家は10軒位あるそうです。

しかし、位牌とか家系図等からお寺が直系と判断できるのは、2軒だけだそうです。その一人の方が現在埼玉県在住で近年広徳寺にお墓を所有されたそうです。

